

平成29年度山梨県南都留地域教育フォーラム提案書

第3分科会

富士河口湖町立勝山中学校

教諭 倉澤 寿行

『不易流行』

～地域とつながる生徒会活動～

1. はじめに

テーマにある『不易流行』の解釈には諸説あるが、その一つに「不易」はいつまでも変わらないこと。「流行」は時代に応じて変化すること。いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも、新しく変化を重ね取り入れていくこと。また、新味を求めて変化を重ねていく流行性こそが不易の本質であること、とある。

この言葉は、私自身の座右の銘であり、全ての活動において、活動することが目的化していないか、また、教育的価値の再検討が必要でないかを心がけている。今、多くの学校現場では、社会情勢、地域情勢、教育情勢の変化の中で、「より良い変化」というよりは「対応」していくのに精一杯な現状がある。それに合わせ、教職員の多忙化、生徒は学習塾中心の習い事、ブラック部活など、教師も生徒も活動に追われて疲弊しているように思う。そんな中では、設定された生徒会行事、学校行事を実施していくことだけで精一杯になり、活動を振り返り、ねらいや成果、課題を見つめ、改善していこうという余裕がない。実際に、一つの行事が終われば次の行事のことに向かなければならない。本来、それぞれの活動は、学校の目指す生徒像を念頭において目的や内容が毎年考えられている。しかし、昨年度実施したからとか、伝統だからと行事ありきの進め方に陥りやすく、内容や方法を吟味し改善してくことに時間が持てない。

しかし、社会の変化に合わせ、子どもたちは変化している。その変化を考えたとき、より良い『不易』を作り出す『流行性』＝『改善』が必要だと感じる。活動がより価値あるものになり、生徒の心に残り、次への活動の意欲、新たなチャレンジへのきっかけになることを望み、今回の提案に繋がっていききたい。

2. 河口湖畔児童生徒連絡協議会の活動について

(1) 目的について（山梨県児童・生徒連絡協議会会則第3条）

「この会は、児童・生徒がみんなで考え、みんなで話し合い、みんなのためになることを進んで実践していくを通し、お互いに理解し合い、協力し合い、交流しながら親睦を図り、よりよい方向へとこの会を発展させていくことを目的とする。」

(2) 活動内容について

- ・テーマ「私たちにできることから地域へ」

「私たちにできることから地域へ」というテーマで湖畔児生連活動は、14年目をむかえます。これは、各校が「どんな学校をつくりたいか、どんな故郷をつくりたいか」という視点で、もう一度学校を見つめ直し、12校が連携を取り、相談しながら活動していこうというものです。各校の取り組みを発表していただき、その発表をもとに湖畔児生連会議に参加している児童・生徒で話し合ったり、各校の取り組みを情報交換したりする場としている。

- ・年3回の児生連会議の開催
- ・子ども保護者教職員の会参加
- ・町長さんと語る会参加

3. 町長さんと語る会について

(1) 目的・方向性

富士河口湖町の児童会・生徒会のリーダーが、町長さんをはじめとする富士河口湖町の行政のリーダーと話し合うことにより、リーダーとしての資質を高め、よりよい学校づくり、町づくりを目指していく姿勢を培う機会とする。

(2) 主な出席者

○町より

富士河口湖町町長 富士河口湖町副町長

○教育委員会より

富士河口湖町教育長 河口湖南中学校組合教育長 富士河口湖町立教育センター所長
富士河口湖町学校教育課課長

○富士・東部教育事務所より

地域教育推進スタッフ2名

○学校関係より

河口湖畔教育協議会会長 富士河口湖町校長会会長 河口湖畔教育会会長

○児童会・生徒会より

河口湖畔小中学校 富士河口湖高校 ふじざくら支援学校高等部

(3) これまでの成果と課題

町長さんや多くの来賓の方、高校生、特別支援学校の生徒が参加することにより、普段の児生連とは違った交流や意見の交換ができた。また緊張感の中で発言し、良い経験となった。

しかし、時間の関係もあったが、主に生徒が意見を出すだけで終わってしまい、そこから話を深めることができないという課題があった。また、来賓の方々から意見をもらえる機会が少なく、ねらいにある町長さんをはじめとする富士河口湖町の行政のリーダーと話し合うことによりという面から考えると、ねらいに沿っていない面があった。

(4) 当日の様子



3. 町長さんと語る会の新たな方向性

(1) ねらい

目的にある「町長さんをはじめとする富士河口湖町の行政のリーダーと話し合うことにより」という面を強調し、社会参画の視点から、自分たちの地域や学校、活動を見つめ直し、地域に根ざした特色ある学校づくり、児童生徒会活動づくりのあり方を考えていきたいと考えた。

また、地域のリーダーと積極的に協力・協働していくことで、学校現場への理解を深め、地域に必要とされる魅力的な学校へと成長が望めると考えた。

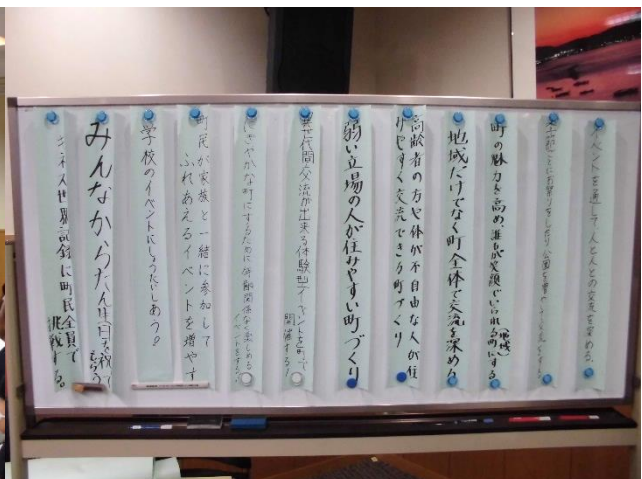
(2) 新たな取り組み

「〇〇な町富士河口湖町 ～私たちにできることから地域へ～」をテーマに、話し合いのグループを設け、町のリーダーと子どもたちが意見交換を行う。生徒たちは事前に「住みたい・訪れたいまち富士河口湖町」をテーマに各校で練習をし、レポートにまとめた。本番のテーマは事前に町長さんに考えて頂き、当日発表をし、来賓の方もグループ分けをし、一緒に討議に参加して頂いた。

・当日のテーマ「笑顔あふれるまち富士河口湖町 ～私たちにできることから地域へ～」

- ① テーマについて、グループで意見交換。(ブレインストーミング方式)
- ② 各グループで一案に意見をまとめる。
- ③ 各グループの意見を発表する。
- ④ 他のグループへの質問意見を取る。
- ⑤ 私たちにできることを決め、各校で実践していく。

(3) 当日の様子



(4) 成果や課題 (各校からの反省アンケートを抜粋)

- ・新しい町長さんを迎えての会だったが、教育現場により目を向けてもらえる機会となったと思う。
- ・KJ法を活用した話し合いがあったことで、「自分たちの町をどのようにより良くしていくか」という行政的な視点を、児童・生徒がもつことができた。
- ・新しい形での話し合いの方法を提案していただき、事前に各校で模擬的に実施するなど、緻密な計画・準備をしてくださったからこそ、より良い会になったと思います。

- ・中学生とグループを組んだことで、話し合いがより活発なものになった。
- ・中学生の進行，リーダーシップに感心した。児童の勉強にもなった。
- ・忙しい日程ではありましたが、レポートを見てもらえば、生徒たちの富士河口湖町への思いも伝わりよいのではないのでしょうか。従来行われていた学校紹介よりも、行政の人と膝を交えて話すのには良い題材です。若い人たちの考えを伝えるという意味でもレポートは良い取り組みでした。
- ・行政のトップと若い人たちが、町の将来についてともに意見を交わし合うということは、非常に意義があります。少子高齢化がすすみ、政治に対して若年層の意見がマイナーな存在となりつつある今日において、これから選挙権を有する若い人たちのパブリックコメントとして位置づけられるのであれば、今回の取り組みは大きな意義があると思います。
- ・町長さんと語る会に参加し、めったに会えない町長さんと会えてうれしかったです。語る会を通して、学んだことや感じたことが多くありました。
- ・その場で考えて、町の政治をする人と話ができて、貴重な体験ができた。自分たちができることを探して実行していきたい。将来、この町に恩返しができるようにしたい。
- ・今回はこのような会で町長さんと話せて良かったです。この会で話せたことを自分たちの学校でもしっかりと生かせるようにしていきたいです。
- ・小学校だけでなく、高等学校・支援学校の生徒会と一緒に活動できる機会は貴重だと思う。今後、湖畔児生連として何かしらの協働活動が仕組めるとよい。(例えば、児生連のときに花をプランターに植えて役場の入り口や中央公民館の入り口に並べるとか・・・)
- ・児童にとっても教師にとっても非常に貴重な体験ができたと思います。

4. 活動のひろがりのために

多くの反省にもあった通り、町の行政のリーダー達と膝を交えて話し合えることがこの会の一番の成果であった。以前の討議スタイルは10年近く続いてきたものであるが、討議の柱を設定し、ある意味では、シナリオ通りに会を進めていくことが成功といえる面があった。今回のスタイルは28年度が初年度になるので、まだまだ改善の余地はあると思われるので、進化・発展していった欲しい。そして、児生連活動や町長さんと語る会で得た成果が、校内での活動で完結するだけでなく、地域に協力を願い協働していくことで、地域から愛される学校へと成長し、また、子どもたちのふるさとを愛し、ふるさとを発展させようという思いに強く繋がっていくことを願う。

